

ひかり野

Saga University Library Bulletin

No.37

July 2013



目次

CONTENTS

「電子モノ」の値段 館長	1
『統計学が最強の学問である』 副館長	2
佐賀大学の新しい教養教育と図書館	3
学生の読書力向上のために	4
学生選書（さらりーず）の活動	5
アメリカンシェルフで在福岡アメリカ領事館とパートナーに	6
「アメリカンシェルフ」開設	7
Library Lovers' キャンペーン 2012 の活動	8
学生向け電子ブックを整備	8
引用文献データベース（スコーパス）の利用開始	9
電子ジャーナル経費に部局負担制を導入	9
中学生の職場体験・職場訪問学習	10
オリジナルしおり、うちわ作り（オープンキャンパス）	10
平成 24 年度図書館月間を開催	11
除籍図書の無償譲渡	11
防災訓練を実施	12
館内の施設整備	12
受入資料紹介	13
図書館統計	14
人事異動	18
図書館日誌（行事・会議・研修等）	19
貴重書紹介	



「電子モノ」の値段

館長 稲岡 司

余り得意ではありませんが、当附属図書館の運営上の（お金の）話をしたいと思います。昨年度は、大学法人から図書館運営経費に補正予算やさまざまな経費を含めて、本館・分館合わせて1億7千万程度のお金を戴きました。そのうち、図書費として約62%使いましたので、図書館としては非常に健全かと思いますが、図書のうち冊子に1/4、残り3/4を電子ジャーナルやデータベース・電子ブックなどに当てております。そもそも冊子の値段が決められる仕組みをよく知らないのに「学術書は高すぎる」などと文句を言っても始まらないのですが、当図書館は毎年日本中に出回る新刊の10%程度は購入し配架しております。一方、「電子ジャーナル等」はほとんどが「アクセス権」なので、手元に冊子として残そうとシステムチックなダウンロードを繰り返すと、即座に大学全体の利用が一時停止処分になってしまう反面、いつでもどこでも誰でも簡単に「バーチャルな現物」に辿り着き利用できるという利点があります。しかし、その「アクセス権」の値段については「高すぎる」と叫ばざるを得ません。加えて、この「アクセス権」というのが、競争相手のいない、出版社に独占的なモノであるため、我々利用者が出版社と交渉する余地はほとんどなく、出版社が提示する「年率5%を上限として上昇する価格」を恨めしく睨み、たまに年率が4%になると喜ぶなどという卑屈な態度で出版社に払い続けてきました。

さすがに大学法人も「もうこれ以上電子ジャーナル等にお金は出せない、今年度から中央経費・間接経費を含めて7千5百万円が上限」という方針になり、7千5百万円を超えたお金をどうやって支払うかということで、何故か図書館が大学と学部等の間に入って昨年度協議した結果、「文系・理系を考慮した教員の数とダウンロード数で按分して部局負担を行う」との結論を得ました。しかし、「電子ジャーナル等の高騰にどうやって歯止めをかけるか」という本質的な問題が残っており、これには、一昨年度から日本の国公私立大学合計500弱の大学図書館が「JUSTICE」という名の連盟を作り、団体で出版社と交渉に当たり始めました。ようやく目に見えるような効果（価格維持や減額）が少しだけ見え始めたのですが、まだまだ予断を許さない状況です。

このような中、「電子ジャーナル等」のお金を「利用者からでなく投稿者から取ろう」、という「オープンアクセスジャーナル」という物が世の中に出現し、右肩上がり伸びようとしています。なぜ伸びるのかというと、一般の学会誌より多くのバーチャル査読者がいて早く査読が行われて雑誌に掲載されるため、業績を早く積みたい人（例えば博士課程の学生や若手の研究者）が高い掲載料（平均約3,000ドル）を払っても投稿するからだそうです。この掲載料についても妥当かどうかと聞かれば結局のところ分からないというのが出版社の本音の「商売」たる所ですが、余談として、こういう新しいものには偽物が付き物で、無駄なお金を払ったという話も聞きました。

以上、とりとめもなく「電子モノ」の値段が不透明で高すぎると言うことを書いてきましたが、これも市場原理にかかって、いずれ落ち着くところに落ち着くとすれば、図書館はあまり価格に一喜一憂しないで、必要なものをよく見極めて集めていく、という当たり前の方針を貫いていくのが良さそうです。それにしても、「電子モノ」が世の中にかに氾濫しようと、冊子は必ず残ると思うのは私ばかりではないでしょう。冊子体は記憶媒体そのものとして優れているばかりではなく、インクの匂いを通じて様々な風景や情景を伝えてくれると思うのですが、いかがなものでしょう。



『統計学が 最強の学問である』

副館長 田中 恵太郎

昼食時に、たまたま隣の教授から左記の本を見せて頂いた。本の帯には、今年（2013年）初めに出版されたにもかかわらず、また内容がとて一般受けする様には思われないにもかかわらず、6月時点で既に25万部（第7刷）を売り上げたという。裏側にはGoogleのチーフ・エコノミストのハル・ヴァリアン博士が語ったという「これからの10年で最もセクシーな職業は統計家だろう」という言葉が記されている。著者は西内啓（ひろむ）という東京大学医学部卒の先生で、1981年生まれ（弱冠32才!）の統計学者である。私自身も疫学研究を生業とし、統計解析を日常の様に行っているが、なんと魅力的な（とて自分では言い切れない!）キャッチフレーズであり、早速本屋に行行って購入して読んでみた。

全体を通しての感想は、上述の様にやや誇張された一般受けのする表現が多いものの、正統な生物統計学・疫学の知識と経験に基づき、実例を多く引用してわかりやすく解説した入門書であるという事だ。本書の構成は、序論、サンプリング、統計学の基礎（クロス集計、P値、因果関係の向き）、ランダム化比較試験、観察研究（ケースコントロール研究とコホート研究）と関連する統計手法（重回帰分析、ロジスティック回帰分析など）、分野による統計手法の違い（社会調査、疫学、心理、データマイニング、計量経済学など）、系統的レビュー（メタアナリシス）という様になっている。この様に書くと非常に堅苦しく見えるが、実例が面白く、一気に読み進む事ができる。歴史的に有名な疫学者や統計学者のエピソードも紹介されているが、ランダム化比較試験を発明した高名な統計学者のフィッシャーが、ミルクティーの作り方で「ミルクが先か、紅茶が先か」を検証した事、喫煙と肺癌に関する疫学研究の結果に猛反対したけれども愛煙家である自身が癌でなくなった事などは面白かった。また、著者はもともと医学系の生物統計学を専攻されたものと推測するが、ビジネスの現場で収益を上げるために統計学がどの様に役立つかという点にも焦点を当てているのが興味深い。「マシンを2台買うと1割引き」というキャンペーンが3倍以上の売り上げにつながったというランダム化比較試験の結果には驚いてしまう。こういった内容が、ビジネスマンにおける売り上げに貢献しているであろう。

残念ながら、私自身は統計学を最強の学問と考えてはいない。統計学はツールであり、用いるデータの質がそれ以前に重要である。どんなに高度な統計手法を用いたとしても、用いるデータに不備な点があったり、バイアス（偏り）があれば、出てくる結果も信頼できないものとなる。自分が達成したい目的のために必要なデータは、既にあるデータを用いるだけでは不十分な場合が大半であり、手間と時間、お金をかけて集めなければならない事が多い。それゆえ著者の言う「最速で最善の答えを出すことができる」かどうかは疑わしい。ただ、一旦その様な質の高いデータを手にして、統計学の手法を適切に駆使する事ができるならば、著者の言う通りの事が可能となる気もする。また、様々なビジネスや業務の副産物として蓄積されているビッグデータも、時として目的に合致したものになる事もあるだろうし、重要な仮説を生み出す可能性も高い。誰でも簡単に統計解析を行える様になったこの時代に統計学の基本を理解しておく事は極めて重要であり、本書は研究者や学生を問わず、ビジネスマンや一般の人にもお勧めできる優れた入門書であると言える。



佐賀大学の新しい 教養教育と図書館

全学教育機構 諸泉 俊介

日本が大きく変わろうとする今、大学教育の在り方が厳しく問われています。佐賀大学の教育もまた大きな変革の時期を迎えています。この変革の一環として、今年から佐賀大学の新しい教養教育が始まりました。新しい教養教育は、「人間としての在り方や生き方に関する深い洞察力と現実を正しく理解する力の涵養」を理念としています。ますます高度になる専門的な知識や技術を有効に使い社会に活かすには、何よりも、深い教養を身につけた人間が必要だからです。佐賀大学では教養教育を、高い専門知識や技術を身につける学士課程教育の根幹に位置づけました。

新しい教養教育では、新入生が最初に学ぶ大学入門科目において、高等学校までの学び方から大学での学び方への転換を図ります。それと同時に共通基礎科目において、これから学ぶ教養教育や専門教育に必要な外国語および健康や情報に関する技能を身につけます。教養教育の中核は、基本教養科目とインターフェース科目です。基本教養科目では、現代社会の様々な学問領域の基礎的な知識を修得します。自らの専門分野以外の人々が物事をどのように考えてどのように行動するのか、これを理解するのが目的です。これに対して、インターフェース科目が目指すのは、大学と社会との接続です。社会において現れる壁を乗り越えるために、人々とどのように話し、協働し、そして解決方法を見つけていくのか、こうした能力を培うのがこの科目の目的です。この目的のためにインターフェース科目では、調査や報告や討議、それに実習や演習といった学生自らの参加を求める授業方法を多用します。インターフェース科目は、これまでの講義中心の大学教育にはあまり見られなかった、新しい形の授業です。

ことにインターフェース科目で目論むように、佐賀大学の教養教育が目指すのは、学生に「教え込む」教育ではなく、学生が「自ら考える」教育です。学生には知識だけでなくあえて課題を与え、学生自らが課題について調べ、話を聞き、自らの力で考える、という教育への転換です。このような教育の転換は、実は、教室の姿を変えるものでもあります。大学における教室の風景といえば、これまでは、黒板に向かって固定された机が整然と並んでいるものでした。しかし、学生同士が対話し自ら考える教育では、机と椅子が自由に動かせる、明るくて開放的な教室が必要です。

図書館の風景もまた変貌するかも知れません。授業で与えられた課題を調べるために、学生はグループで図書館へと赴きます。図書館で必要な図書や資料を引出し、その場で討議が始まります。図書館は、一人静かに本に向かいノートを取る場所に加えて、グループ学習のための新たな場所となるでしょう。このような図書館の新たな機能は「ラーニング・コモンズ」と呼ばれて、すでにいくつかの大学で現れ始めているようです。

新しい酒は、新しい革袋に盛られなければなりません。佐賀大学の新しい教養教育はまだ始まったばかりですが、新しい装いの教室や図書館で快活に語り成長する佐大生の姿を夢想してやみません。

学生の読書力向上のために

佐賀大学の学生1人当たりの年間貸出冊数は、22年3月時点で約4冊という大変低い数字でした。この状況を改善するために、「あげる佐賀48」というプロジェクトを開始し、学生へのアンケート調査結果などを基にいろいろな施策を行ってきました。

目標は、学生1人当たりの年間貸出冊数を8冊に倍増することです。

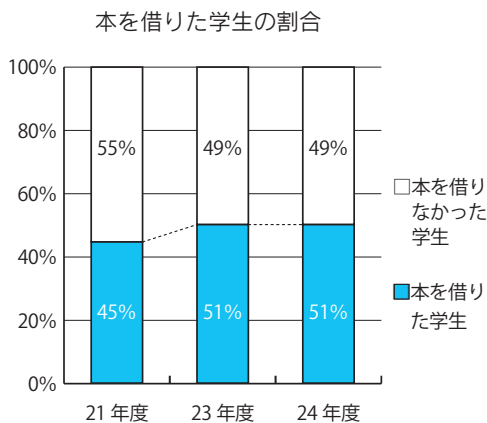
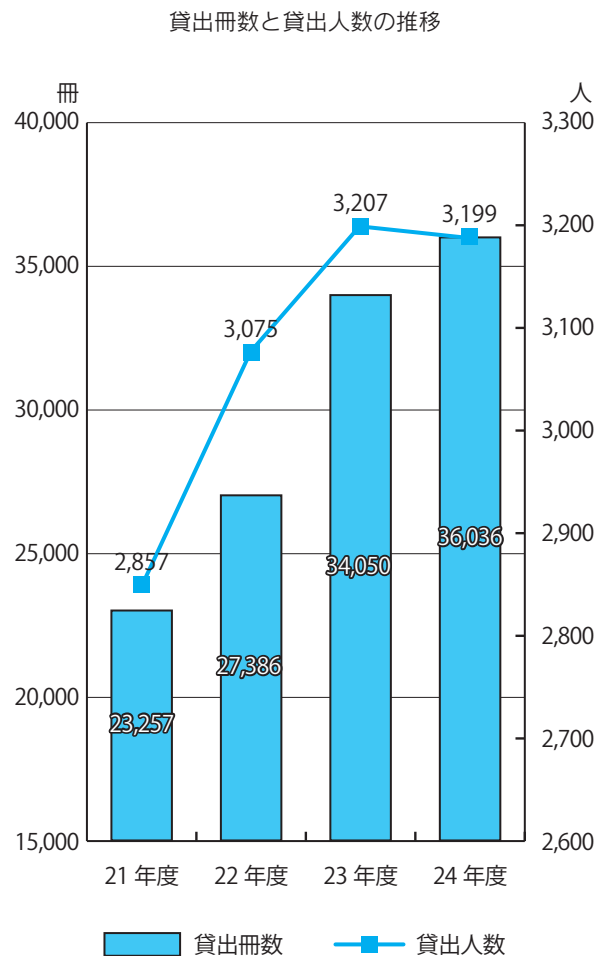
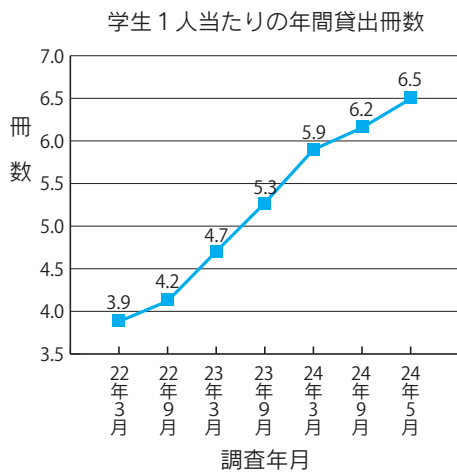
1. 行ってきた施策

- ①自然科学・工学系の新しい図書を集中的に購入しました。
- ②重複図書の除籍を進め、古い図書を書庫に移して、書棚に新しい本が並ぶようにしました。
- ③開架書架を増設し、また2階書庫を集密書架へ改修することにより、収納冊数を増やしました。
- ④本の並べ方(平積み等)、装飾(ポップ等)を工夫し、手に取りやすくしました。
- ⑤学生選書委員による活動を継続して推進し、学生選書コーナーを充実しました。

2. 現在の状況と今後の課題

学生1人当たりの貸出冊数は25年5月に、調査開始時の1.7倍の6.5冊に増えました。その要因として、貸出冊数の順調な増加が挙げられます。

貸出冊数が増加している反面、貸出人数は頭打ちになっています。本を借りた学生の割合はこの2年間は、全体の51%で変化がありません。今後は、図書館から本を借りたことがない学生が本を借りるための施策が必要と思われます。



学生選書(さらりーず)の活動

読書奨励企画として、昨年に引き続き、今年も学生参加型の企画である学生選書(愛称:さらりーず)の活動を行いました。メンバーは19名で、各学部、院生、留学生と幅広く集まりました。今年で7回目となり、図書館の定番企画になっています。メインの選書ツアーだけでなく、メンバーを4つのグループに分けて、あるテーマに沿った展示を行うという新しい試みも実施しました。また、毎年人気の職場体験等の活動も行いました。

まず、恒例の学生選書ツアーは福岡で2回実施しました。1回目はジュンク堂福岡店で選書、福岡大学中央図書館の見学を行いました。2回目は、丸善博多店で行いました。選書では、「夢中で本を選んでいたので、あっという間に時間が経ってしまった」「知人の意見を参考にしつつ後輩に読んで欲しい本を選んだ」などの声、また図書館見学では、「他大学の進んだ図書館サービスや施設の工夫が見られて本当に良かった」「近未来的でおもしろかった」との声がきかれました。後日、さらりーずミーティングで審議し、その結果、選書した本全てである約600冊の購入が決定しました。



学生選書ツアー



グループ別の本の展示 作業風景

今年の活動でぜひ紹介したいのは、グループ別の本の展示コーナー、学生同士のミーティング、そしてWeb上の仮想本棚である「ブックログ」の利用です。グループ別の本の展示では、グループそれぞれあるテーマについて選書をし、それらの本の展示やポップ作りなどをメンバー自身の手で行ってもらいました。特に図書館職員からの働きかけなしに、「どのグループ展示が良かったか投票してもらおう」「貸出ランキングを出そう」などのアイデアが生まれ、創意工夫された魅力的なコーナーになりました。展示は3カ月間行い、他学生にも好評でよく貸出がされていました。

他にも、「学生同士で意見交換の場を作りたい」との提案があり、委員長の学生が中心となって、月1回「さらりーず学生ミーティング」を行いました。職員はオブザーバーとして参加し、メンバーのみで自由に話をしてもらったことで、学生の意見がきける大変いい機会となりました。

また、今回から、ブックログ(Web上の仮想本棚)というサイトを利用し、学生が選書した本をWeb上で紹介しています(URL:<http://booklog.jp/users/sagaul>)。

学生選書で選ばれた図書は、本館の学生選書コーナー、医学分館の特設コーナーにそれぞれ配架され、大変人気が高いものとなっています。この企画により学生メンバーからの図書館に対する考えや意見などを知ることができたり、また学生らしい発想に感心させられたりなど、大変刺激になっています。さらに良い図書館作りのための貴重な企画として、今後も継続して行っていく予定です。

アメリカンシェルフで在福岡アメリカ領事館とパートナーに

「アメリカンシェルフ」とは、アメリカ大使館・領事館が日本では手に入りにくいアメリカの本を寄贈し、それらの本を通じて文化交流を図るというアメリカ国務省のパートナーシップ・プロジェクトです。在福岡アメリカ領事館、佐賀大学附属図書館、佐賀大学アメリカ社会文化研究所は平成24年12月の覚書調印によりパートナー関係となり、在福岡アメリカ領事館から寄贈された留学ガイド、英語学習書、旅行ガイドブック、賞を受けたアメリカ小説等238冊の図書は、平成25年4月のオープニングセレモニーとともに本館3階に設置したアメリカンシェルフコーナーで利用できるようになりました。

また、覚書調印式ではマイケル・チャドウィック在福岡アメリカ領事による記念講演、オープニングセレモニーではマーク・J・ディビッドソン米国大使館公使による記念講演が行われ、多数の学生が参加し、有意義な講演会となりました。

今後附属図書館は、このパートナーシップ関係を学生向け、一般市民向けの講演会やセミナー等においても活用していく予定です。



アメリカンシェルフ覚書調印式



オープニングセレモニーの様子



マイケル・チャドウィック領事
記念講演



マーク・J・ディビッドソン公使
記念講演



アメリカンシェルフ棚

「アメリカンシェルフ」開設

アメリカ社会文化研究所長
早瀬 博範

本年4月、本学附属図書館4階に「アメリカンシェルフ」が設置された。これは、福岡に在るアメリカ領事館から、約4,000ドル分に相当する約240冊のアメリカ関係の図書の寄贈を受けて設置されたもので、全国にあるアメリカ大使館や領事館が、アメリカ文化・社会の理解や留学や英語教育の促進を目的に行なっている文化事業である。本学の場合、九州の国立大学では初めて（全国でも2番目）ということもあり、東京の米国大使館から公使のマーク・J・デイヴィッドソン氏から基調講演までしていただき、マスコミ等でも大きく取り上げられることとなった。

では、なぜアメリカ領事館が4000ドルの寄付を本学にしたのか？ それは、本学にバーチャルではあるが、私が所長となって「アメリカ社会文化研究所」なるものを設置したことが理由である。あるとき、領事館の関係者と話をしたとき、話題の一つとして研究所を設置したことを話したところ、早速、数日後にはアメリカ領事館から寄付の話が持ち上がった。バーチャルではあるが、「アメリカ」という名前がついた施設が出来たということで領事館は喜び、研究の支援、促進ということで、今回の寄付ということになった。確かに全国の大学を見渡してみても、アメリカという名前のついた研究所は5つ程度しかなく、九州では初めての「設置」ということも大きかったようだ。しかも、これをきっかけに、今後も支援や協力を約束してもらった。バーチャル研究所、恐るべしである。

今回寄贈されたものの半分にあたる約120冊がアメリカの現代小説である。ピューリッツァー賞（小説部門）など高い評価を受けた名作ぞろいである。現在のアメリカで評価が高いのは、白人以外の作家が書いたものである。注目すべきものを少し紹介したい。中国系作家エイミー・タンの *Joy Luck Club* は、アメリカに移住した中国系アメリカ人の一世の母と、アメリカで育った2世の娘の軋轢を描き、世界的ベストセラーとなった。ジェフリー・ユージェニデスの *Middlesex* は、アメリカに渡ってきたギリシア系一家の3代に渡る物語で、両性具有などの現代的なテーマも織りこみ、読者を豊穡な物語世界へ引き込む。インド系作家ジュンパ・ラヒリの *Interpreter of Maladies* は、本国インドとは無縁に育った若いインド系アメリカ人のアイデンティティーの問題を扱った短編集であるが、どの一品をとっても秀逸で、卒論に選ぶ学生も多い。他に、先住民人気作家シャーマン・アレクシーの *Reservation Blues* や、アメリカでも珍しいアフガニスタン出身のカーレド・ホッセイニの *The Kite Runner* があるのも嬉しい。これだけの現代小説が一気に図書館に揃ったことは、それだけでも胸躍る。

最初から原文で読むのはちょっと、という人のためには、*Oxford Bookworms* がお薦めである。このシリーズは比較的やさしい英語でリライトされたもので、*The Scarlet Letter*, *Pride and Prejudice*, *Oliver Twist* などの英米の名作が準備されている。これらは、ストーリーがぐいぐい引き込む力を持っているので、多読用図書としてもお薦めである。この辺りから慣れて、原書に挑戦というのが良い。

小説以外にも、美しい挿絵がたくさん入ったアメリカの州ごとの案内書である *Frommer's Series* は見るだけでも楽しい。各州の歴史や、名所、旧跡などが詳細に説明されており、旅行案内書よりもちゃんとその州の良さが分かる。私も新しい州を訪れるときは、必携の「読み物」としている。また、アメリカの美術関連の書物もわずかではあるが選出してもらった。英語力とは無関係なので、手に取ってもらえるだけで、アメリカの魅力を少しでも感じてもらえるかもしれない。

留学に関する参考図書も準備してもらった。アメリカの大学院留学案内書から、TOEFL, GREを始めとする留学用の試験対策本もすべて揃っているので、学部・大学院への留学を考える学生にとってはありがたい充実ぶりである。

翻訳で読むのもいいが、やはり原書でしか味わえないものがある。せつかくこれだけの図書が充実したので、一冊でもいい、あるいは部分的でもいいので、原文の世界に触れてもらえると嬉しい。もっとも単に要請するだけでなく、一人でも多くの方々にアメリカンシェルフを手にとってもらえるようなアイデアを考えるのも、「アメリカ社会文化研究所」の仕事として考える必要があるのかもしれない。

Library Lovers'キャンペーン 2012の活動

Library Lovers' キャンペーンは、九州地区の国公立大学および高専の図書館が年に1度、合同で行うイベントです。大学図書館を面白くしたい、図書館の魅力を発信したいという思いから2010年に始まりました。3年目を迎えた今回は初めて、1度に2つの企画を実施しました。

「本で、旅する。－九州文学地図－」は、九州各地を舞台にした文学作品の紹介文を各県の名産品を模したコメントシートに書いてもらい、図書館に設置した九州地図に貼り付けていく企画でした。同時にLibrary Lovers' ホームページでは、全館に寄せられたコメントを集めてウェブマップにして公開しました。

「大学図書館貸出ランキング」では、参加各館の貸出回数上位の資料を募り、九州地区全体での貸出回数のランキングを作成してホームページに公開しました。

これからも毎年、大学図書館に興味を持ってもらえるような趣向を凝らしたイベントを実施していく予定です。



2012年度ポスター



九州文学地図(医学分館)



ウェブ地図とホームページ

学生向け電子ブックを整備

平成24年度末に、インターネット接続環境さえあれば、「いつでも」、「どこからでも(一部はキャンパス内のみ)」利用できる学生向け電子ブック(和書)を約570冊購入しました。本学が第2期中期計画で教育環境整備について掲げる「ICTを活用した教育環境を整備し、自学自習スペースを充実する。」ことへの支援、また平成22年12月の科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会「大学図書館の整備について(審議のまとめ)」で示される学習のための電子的環境の整備と並行した「学習のための教科書、参考図書等の図書を電子的に提供することが急務となってくる。」ことへの対応であると位置づけています。

今回の電子ブック整備により、各学部の自学自習室などインターネット接続環境が整備された場所で学生の皆さんは辞書事典類、入門書や専門書等の図書館資料を利用した自学自習が可能となりました。また、図書館内での電子ブック利用促進のため、貸出用ノートパソコン、iPad等も併せて整備しました。平成25年度の早い時期には、学生の皆さんがより便利に電子ブックを利用できるよう「電子ブックポータルサイト」を整備する予定です。

電子ブックの出版自体がまだ少なく、シラバス掲載図書を電子ブックで整備することはまだ難しい状況にありますが、学生の学習スタイルの変化に対応して今後も継続して整備を進めていきたいと考えています。

電子ブックの学外からの利用は、平成22年からの電子ジャーナルと同様、本学総合情報基盤センターの「学術認証フェデレーション(学認)」への対応により実現しています。あらためて同センターの対応に感謝の意を表します。



Maruzen e-Book Libraryの画面

引用文献データベース(スコパス)の利用開始

平成24年4月から科学・技術・医学・社会科学・人文科学の全分野をカバーする引用文献データベース(スコパス)の利用を開始しました。利用開始にあたり利用法に関する講習会を開催しました。本庄キャンパスでは、総合情報基盤センターで4月10日、鍋島キャンパスでは、医学サブセンターコンピュータ実習室で4月9日に行い、両キャンパスとも、実際にパソコンを使つての実習形式とあつて、あわせて100人を超える参加者があり大変好評でした。今後より一層の利用拡大を図っていくため、ホームページでの案内やオンライン講習会等の広報を引き続き行っていきたくと考えています。また、日本語のインターフェースがリリースされ、主要な画面が日本語化されたことでより使いやすくなり、情報収集が行いやすくなりました。



日本語インターフェース画面

電子ジャーナル経費に部局負担制を導入

大学における重要な学術情報基盤の一つである電子ジャーナルについて、「平成24年度国立大学法人佐賀大学予算編成の基本方針」において「所要額が毎年増大することが見込まれることから、経費負担の在り方等について検討を行い結論を得る」ことが示されました。また、「平成24年度経営戦略対象事業の選定について」において平成24年度からの導入が決定した文献データベースScopus (スコパス) についても、「電子ジャーナル経費と同様、経費負担の在り方についての検討が必要である」ことが示されました。

これを受け附属図書館では、平成24年4月に各学部やセンターを代表する委員で構成する「電子ジャーナル等専門委員会」を設置して経費負担について検討を行い、附属図書館運営委員会での議を経て「佐賀大学における電子ジャーナル等経費の負担の在り方についての検討報告書」として検討結果をまとめました。その後同報告書をもとに、拡大役員懇談会、大学運営連絡会を経て役員会において、平成25年度から平成27年度までの3年間について経費の一部に部局負担制の導入及び各部局の負担ルールが決定されました。

今回の措置により平成25年度から3年間の導入経費は安定させることができましたが、更なる価格上昇等への対応については、大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)の活動に期待すると共に、図書館内で早めに検討を始めたいと考えています。

中学生の職場体験・職場訪問学習

【職場体験】

平成24年8月21日(火)に、佐賀清和中学校2年生3名の職場体験を実施しました。業務の概要説明を行い、館内清掃、カウンターでの貸出返却、図書の受入・整理等、一生懸命に取り組んでいただきました。

【職場訪問学習】

平成24年11月8日(木)に、佐賀清和中学校1年生7名の職場訪問学習を実施しました。生徒さんから事前に提出された業務に対する質問について、当日面談しながら答えました。活発な質疑があり、熱心に取り組んでいただきました。

オリジナルしおり、うちわ作り(オープンキャンパス)

医学分館では、8月9日のオープンキャンパスのミニイベントとして、『しおり&うちわ手作り体験コーナー』を開催しました。たくさんの高校生が参加して、世界で一つだけのマイしおり&うちわを作られました。

平成25年度のオープンキャンパスでもイベントを予定しています。どうぞ、お気軽にお越しください。



H24年度 8月9日 オープンキャンパス



みなさん、初めまして(๑)!

ここは、佐賀大学附属図書館医学分館です。

医学分館では、図書・雑誌あわせて約11万冊を所蔵しています。医学書が主で、みなさんの先輩方がよく利用されています。

館内自由にご見学できます。どうぞごゆっくりお過ごしください☆

※本日の目玉!! しおり・うちわ作り (๑)

お時間がある方はぜひ、しおり・うちわを作ってみませんか☆
材料はこちらで準備していますので、ご自由にお使いください。
ひとつだけの「オリジナルしおり・うちわ」体験しましょう!

佐賀大学附属図書館医学分館

平成24年度図書館月間を開催

附属図書館では、地域に根ざした生涯学習の拠点としてサービスを提供するという目的のもと、毎年11月を図書館月間として催しを行っています。平成24年度は、佐賀に所縁のある古代中国人「徐福」の東渡2222年を記念して「徐福－不老不死の薬を求めて、そして今－」というテーマで、2回の講演会を附属図書館本館4階会議室で開催しました。

また、講演テーマに合わせて、徐福に関する資料展示を行いました。

講演

日 時：11月12日(月) 14:00～15:30

講演者：NPO法人佐賀県徐福会理事長 澤野隆氏

演 題：「徐福2200年ロマン－徐福の見た夢－」

日 時：11月13日(火) 16:00～17:30

講演者：佐賀大学農学部准教授 永尾晃治氏

演 題：「徐福ラボにおける食品機能性に関する研究－佐賀県産品の可能性－」

展示

会 場：佐賀大学附属図書館 本館1階エントランスホール

期 間：11月8日(木)～19日(月)



澤野隆氏講演



永尾晃治氏講演



展示

除籍図書の無償譲渡

附属図書館では、平成24年度も除籍した図書の、再利用を目的とした無償譲渡を行いました。本館の約1万冊、医学分館の約1千冊の除籍した図書の中から、本学の学生・教職員、一般利用者の方に先着順でお持ち帰りいただきました。

今後も計画的に図書の除籍を行い、無償譲渡を実施しますので、どうぞご利用ください。



防災訓練を実施

附属図書館本館では、平成24年9月25日(火) 14時より、佐賀市内で夜間に震度5強の地震が発生、附属図書館で火災が発生したという想定で、学生アルバイトに扮した職員2名が対応するという実地訓練を行いました。

数少ない職員での対応時は、利用者にも応援を求めて対応する必要があるというのが今回の訓練で得た大きな成果でした。また、今回は実地訓練だけでなく、「附属図書館防災マニュアル」や防災用コントロールパネルの学習会も開催しました。

医学分館でも、平成24年9月4日(火) 11時より、火災が発生し負傷者が出たとの想定で防災訓練を行いました。また、訓練前後に防災訓練ビデオやAED使用法についてのDVDを視聴しました。

本館・分館とも、訓練シナリオを工夫したり、図上訓練等も行うなど例年以上に有意義な防災訓練となりました。



《本館》夜間アルバイト職員役の職員2人



《医学分館》負傷者を担架で運ぶ様子



《本館》訓練に参加してくれた学生さんも一緒に



《医学分館》訓練終了後の集合写真

館内の施設整備

本館・医学分館では、利用者の方に快適・安全に図書館を使っていただけるように、利用環境の整備・充実を行いました。

1. 本館1・2階閲覧室の老朽化した椅子を新しく入れ替えました。
2. 本館1階身障者用トイレの照明センサー及び手摺り等を取換えました。
3. 医学分館の階段滑り止め、自動扉、及び図書コーナー系統空調機の補修し、1階女子トイレ手洗い乾燥機を取替えました。
4. 医学分館のエレベータを身障者対応として、手摺、操作卓、鏡及びマルチビームセンサー等を改修しました。

利用者の方には、学習、情報収集にさらに使いやすくなった図書館を活用していただきたいと思います。引き続き、利用環境の整備を進めていきます。

受入資料紹介

学生用図書

平成24年度学生用図書費により、以下のとおり図書を購入しました。

教員推薦図書 1,764冊 学生推薦図書 596冊 図書館推薦図書 1,329冊 継続購入図書 425冊

寄贈図書

○大学関係者著作図書

文化教育学部准教授 後藤正英

[共著] 臨床知と徴候知 / 後藤正英, 吉岡剛彦編 作品社

○その他

理事 中島晃

メッカ巡礼記 / 鈴木剛著 ; サミール・アブドルハミード・イブラヒーム, サーラ・高橋, アヤ・ヌーハ・高橋編 リヤド : アブドル・アジーズ国王記念図書館 他4点

文化教育学部教授 相澤照明

日常性の環境美学 / 西村清和編著 ; Junko Nagano [ほか著] 勁草書房

農学部講師 上野大介

地獄と向きあって44年 : カネミ油症、苦闘の記録 / 矢野忠義, 矢野トヨコ著 書肆侃侃房

(元)経済学部准教授 石川亮太

朝鮮王朝實録 國史編纂委員會 他111点

坂柳明

未確定事項の監査論 / 坂柳明著 中央経済社

大木マリ子

僕のバリロ : 東城國裕遺稿・追悼集 / 東城朱美編 海鳥社

牧山隆洋

The Feynman lectures on physics vol.1 / Feynman, Leighton, Sands Basic Books 他2点

澤野隆

佐賀に息づく徐福 / 村岡央麻著 村岡央麻 他15点

高崎康史

新幹線車窓の発見! / 高崎康史著 彩図社

山内昌一郎

外科医と志 / 山内昌一郎著 鳥影社

多賀須幸男

医学に関する古美術聚英 / 京都国立博物館監修 便利堂 他7点

(敬称略)

図書館統計

〈平成25（2013）年3月31日現在〉

基盤統計

蔵書冊数

(冊)

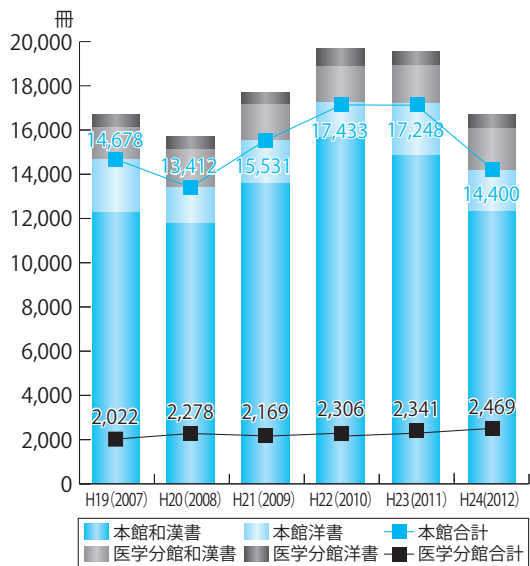
	和漢書	洋書	合計
本館	416,024	175,490	591,514
医学分館	67,245	45,916	113,161
合計	483,269	221,406	704,675

雑誌所蔵種類数

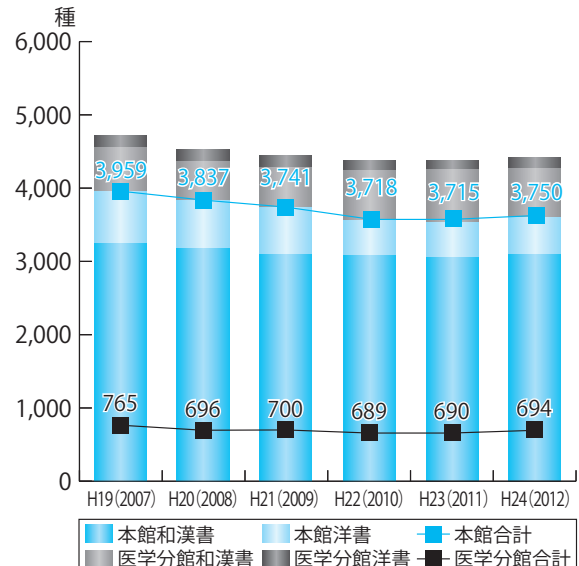
(種)

	和漢書	洋書	合計
本館	6,519	2,971	9,490
医学分館	1,227	1,117	2,344
合計	7,746	4,088	11,834

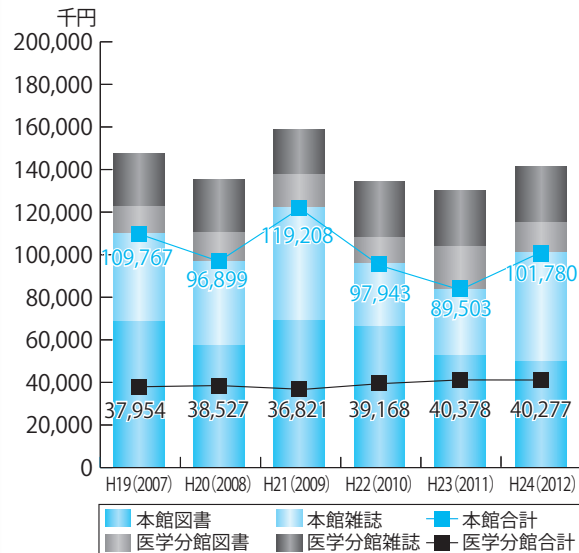
図書受入冊数



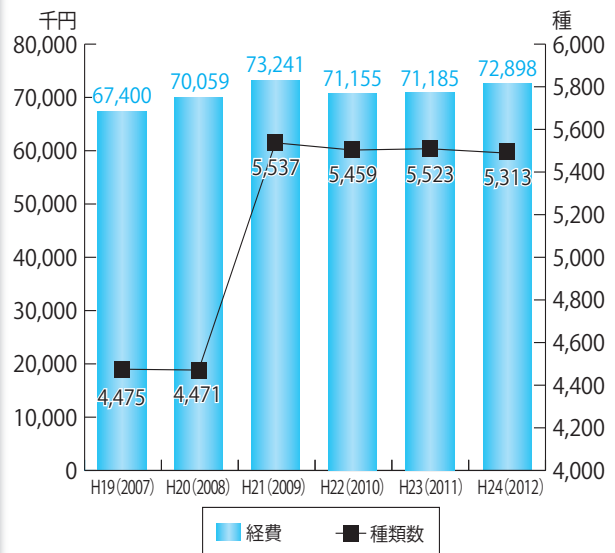
雑誌受入種類数



図書館資料費



電子ジャーナル経費と種類数



サービス統計

開館日数

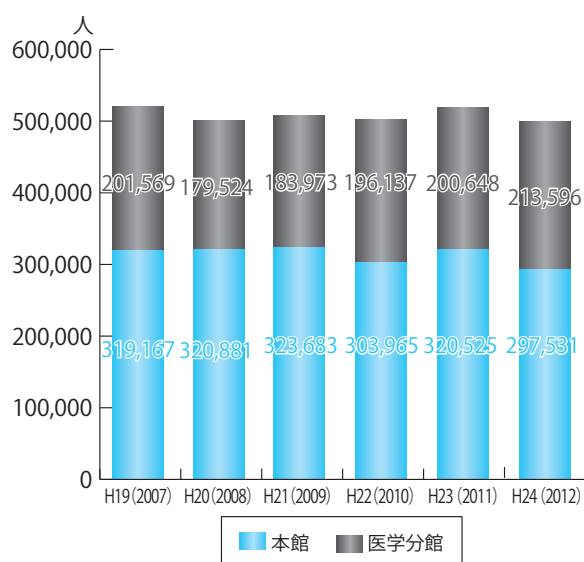
	本館	医学分館
平日	234	241
土・日・祝日	109	106
合計	343	347

(日) 利用対象者数

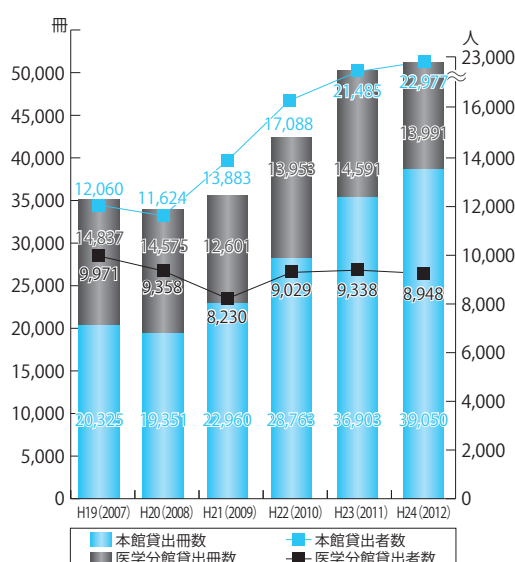
〈平成25 (2013)年5月1日現在〉(人)

	本館	医学分館	合計
学生	6,151	1,086	7,237
教職員	1,044	921	1,965
合計	7,195	2,007	9,202

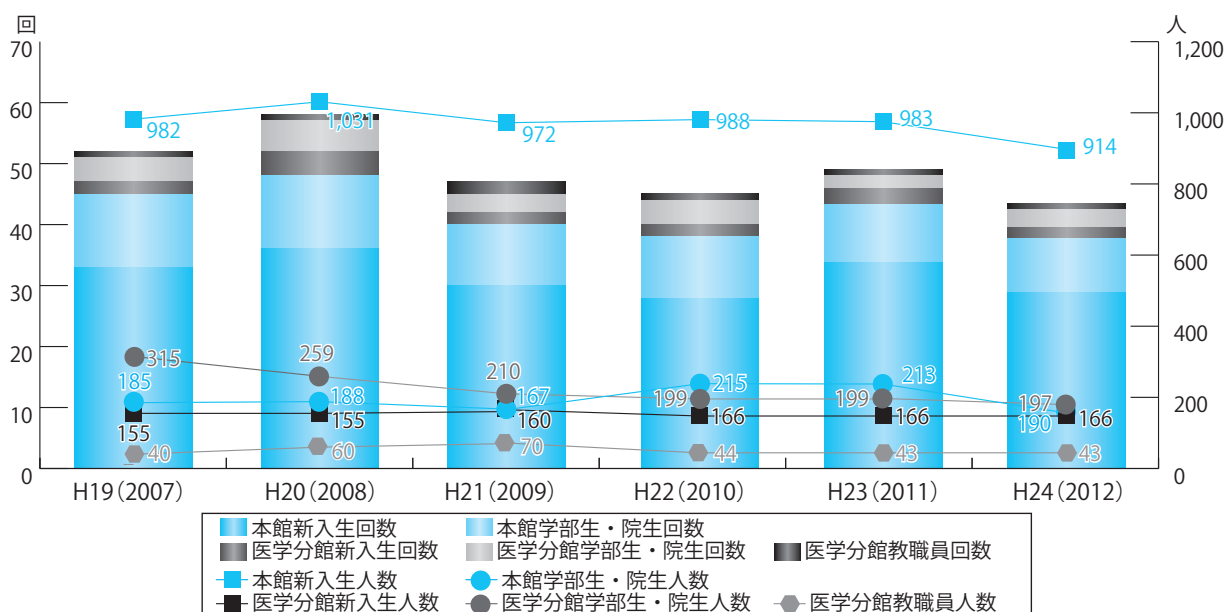
入館者数



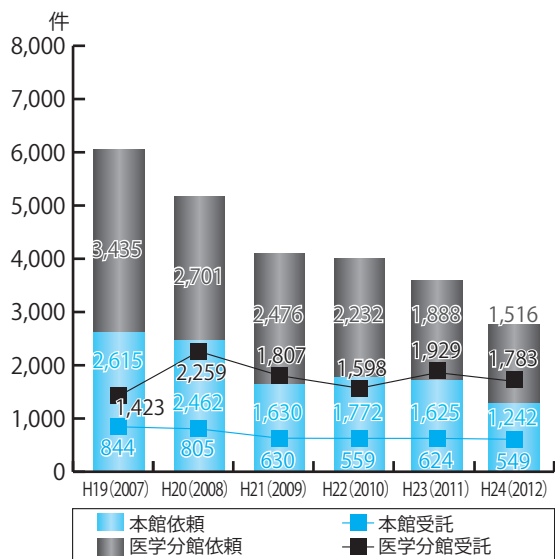
貸出冊数と貸出者数



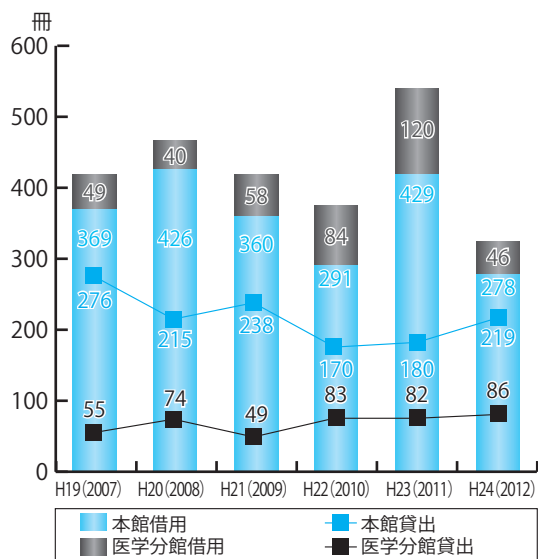
オリエンテーション(図書館案内)



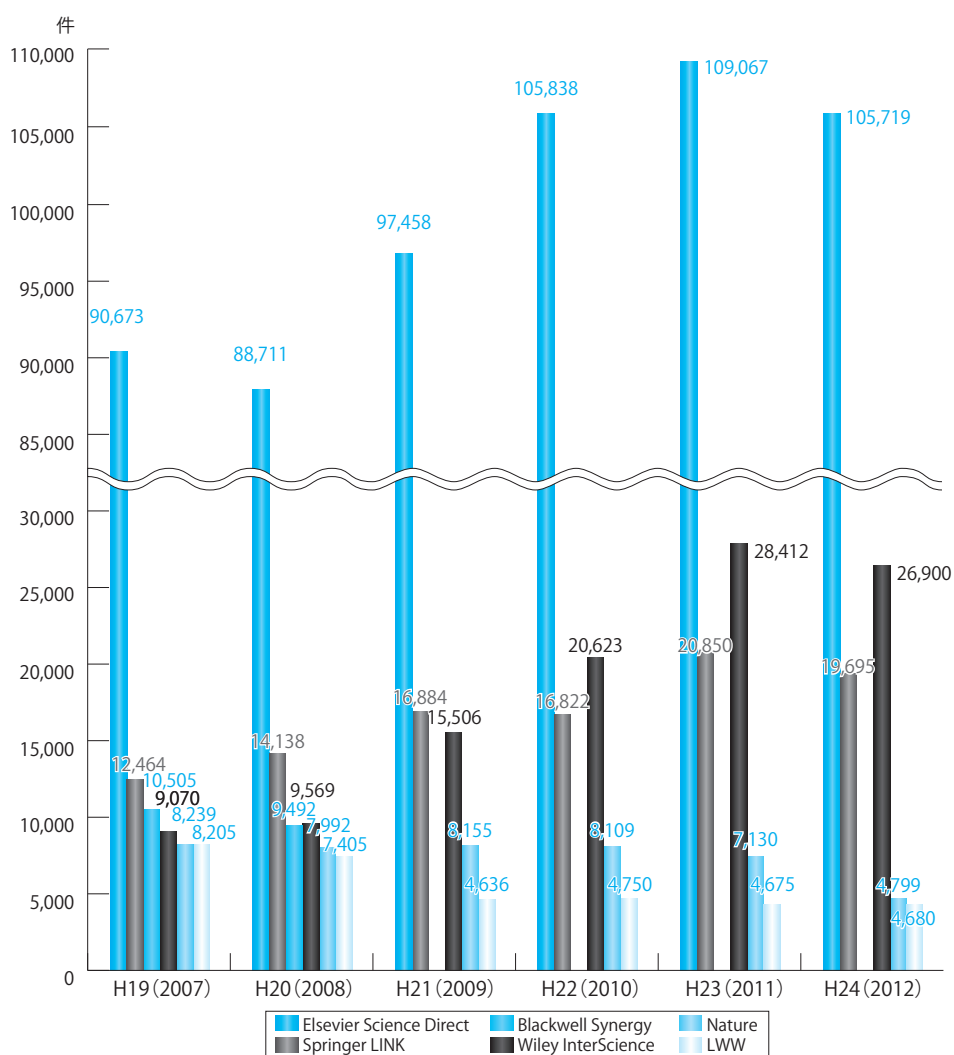
文献複写件数



相互貸借冊数



電子ジャーナル利用件数



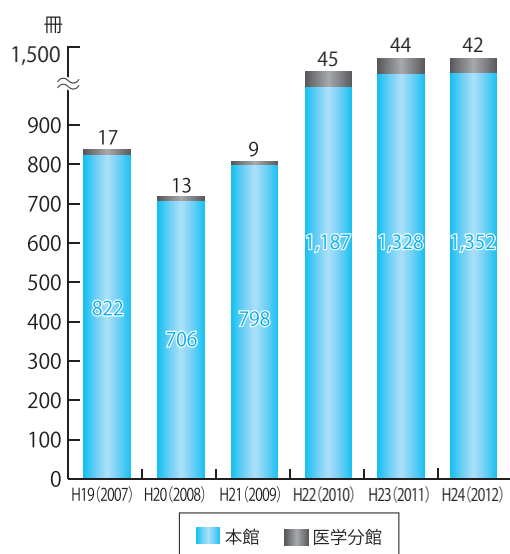
・ Blackwell と Wiley は H21 (2009) 統合

文献データベース利用件数

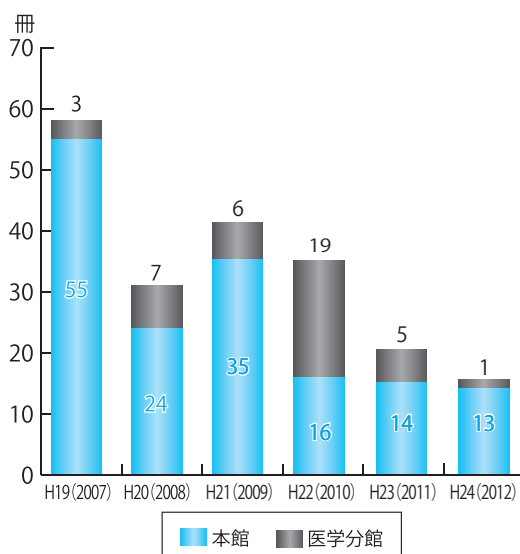
年度	CiNii	間 蔵	ヨミダス歴史館	ジャパンレヅジ	ブックプラス	日経テレコン	日経BP記事索引	医中誌Web
H19 (2007)	11,294 (40,421)	595	/	/	/	/	/	(240,670)
H20 (2008)	14,145 (42,702)	759	/	/	/	(263,106)	(3,430)	(235,026)
H21 (2009)	12,750 (72,456)	928	/	/	/	(216,239)	(2,824)	(255,142)
H22 (2010)	21,901 (86,606)	1,240	(5,627)	398	609 (814)	(267,335)	(2,274)	17,172 (258,413)
H23 (2011)	21,149 (85,559)	1,126	(9,924)	300	520 (646)	(690,657)	(2,861)	17,509 (59,105)
H24 (2012)	15,689 (66,710)	1,023	(7,675)	155	146 (302)	(688,304)	(4,329)	17,308 (51,252)
年度	SciFinder	Academic Search Premier	Ovid	UpTo Date	Stat!Ref	Clinical Evidence	Cinahl	Scopus
H19 (2007)	4,186	/	16,721 (36,578)	4,880	/	/	/	/
H20 (2008)	4,159	/	12,684 (23,447)	3,197	/	/	/	/
H21 (2009)	3,859	/	7,348	2,533	/	50 (55)	233 (780)	/
H22 (2010)	3,049	3,726	9,586 (20,880)	2,889	171	39 (62)	432 (1,647)	/
H23 (2011)	5,055	2,984	9,302 (22,413)	2,550	41	37 (89)	277 (1,306)	/
H24 (2012)	4,370	3,055	5,964 (11,207)	2,295	12	38 (92)	73 (264)	11,031 (35,832)

*括弧内は検索回数または本文利用回数 *斜線箇所は統計データなし

一般市民への貸出冊数



県内公共図書館への貸出冊数



人事異動

(平成24年4月2日～平成25年4月1日)

異動区分	発令年月日	氏名	現職	異動内容
退職	24.6.30	古賀由希子	医学分館主	
勤務命令	24.7.1	正岡美奈子	情報図書館課係長(図書・雑誌主)	情報図書館課司書
"	"	疋田恵介	情報図書館課司書(医学分館主)	情報図書館課司書(電子情報主)
採用	"	中山有貴	医学分館主	
"	24.8.1	北原綾子	情報図書館課司書(電子情報主)	
退職	25.3.31	峯松志衣奈	利用サービス主	
配置換	25.4.1	木村伸子	情報図書館課長	情報管理課長(情報企画室長)
"	"	秋山幸子	財務部経理調達課主任	情報図書館課主任(総務主)
"	"	高田勝波	情報図書館課主任(総務主)	大学院工学系研究科主任(総務主)
"	"	浅岡宏信	情報図書館課係長(図書・雑誌主)	情報図書館課係長(電子情報主)
"	"	三浦聡子	情報図書館課係長(利用サービス主)	情報図書館課係長(医学分館主)
"	"	森 暁子	情報図書館課係長(電子情報主)	情報図書館課係長(利用サービス主)
"	"	正岡美奈子	情報図書館課係長(医学分館主)	情報図書館課係長(図書・雑誌主)
"	"	上原ひろ美	情報図書館課司書(図書・雑誌主)	情報図書館課主任(図書・雑誌主)
採用	"	松本美貴	利用サービス主	

図書館日誌（行事・会議・研修等）

平成24年

- 4月 1日 図書館情報誌「さらり」4号発行
- 4月19日 第42回九州地区国立大学図書館協会総会
(当番館:鹿児島大学附属図書館 於:鹿児島東急イン)
- 4月20日 第63回九州地区大学図書館協議会総会
(当番館:鹿児島大学附属図書館 於:鹿児島東急イン)
- 5月 9日 平成24年度佐賀大学評価制度研修
(於:本庄地区 附属図書館会議室、鍋島地区 臨床小講堂)
- 5月25日 平成24年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会
(理事館:聖マリア学院大学 於:石橋美術館)
- 5月30日 平成24年度第1回附属図書館運営委員会
「平成23年度決算及び平成24年度予算(案)について」他
- 5月31日 平成24年度第1回附属図書館選書専門委員会(メール会議)
~6月 4日 「平成24年度学生選書委員の選考について」
- 6月11日 平成24年度佐賀大学中堅職員研修
~12日 (於:菱の実会館多目的室)
- 6月15日 平成24年度第2回附属図書館運営委員会(メール会議)
~21日 「図書の除籍について」
- 6月21日 第59回国立大学図書館協会総会
~22日 第7回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー
(当番館:神戸大学附属図書館 於:ANAクラウンプラザホテル神戸)
- 6月28日 平成24年度第2回附属図書館選書専門委員会(メール会議)
~7月 2日 「平成24年度学科推薦図書の選定について」
- 7月 1日 平成24年度九州地区国立大学法人職員採用事務系(図書業務)二次専門試験
(於:九州大学附属図書館)
- 7月 3日 学術情報セミナー2012 in 福岡
(於:九州大学中央図書館)
- 7月 4日 九州大学附属図書館セミナー
(於:九州大学中央図書館)
- 7月 6日 平成24年度ILLシステム講習会
(於:九州大学附属図書館)
- 7月 9日 平成24年度第1回附属図書館医学分館運営委員会
「平成23年度決算及び平成24年度予算(案)について」他
- 7月20日 Library Lovers' キャンペーン 2012
(於:九州大学附属図書館)
- 7月24日 平成24年度佐賀大学幹部職員(課長級)研修
(於:菱の実会館多目的室)
- 7月28日 平成24年度九州地区国立大学附属図書館ソフトバレーボール大会
(当番館:熊本大学附属図書館 於:熊本大学体育館(黒髪キャンパス))
- 7月31日 図書館報「ひかり野」36号発行
- 8月 1日 平成24年度佐賀県大学図書館協議会総会
(当番館:佐賀女子短期大学図書館 於:411教室)

- 8月 1日 目録システム地域講習会(雑誌コース)
～3日 (於:九州大学附属図書館)
- 8月20日 平成24年度北部地区研究会目録講習会(初級)
～21日 (於:九州共立大学附属図書館)
- 8月21日 職場体験学習受入
佐賀清和中学校2年 3名
- 8月21日 平成24年度佐賀大学新採用事務系職員研修
～23日 (於:菱の実会館多目的室)
- 8月24日 佐賀大学情報化要員養成研修(Excel2010活用講座(関数編)、Access2010活用講座)
(於:総合情報基盤センター)
- 8月27日 第1回学生選書ツアー
(於:福岡市 福岡大学図書館、ジュンク堂福岡店)
- 8月29日 平成24年度第3回附属図書館運営委員会
「佐賀大学における電子ジャーナル等経費の負担のあり方について」
- 9月 4日 図書館医学分館防災訓練実施
- 9月 6日 平成24年度第2回機関リポジトリ新任担当者研修(岡山会場)
～7日 (於:岡山大学附属図書館)
- 9月20日 第2回学生選書ツアー
(於:福岡市 丸善書店福岡店)
- 9月20日 平成24年度第2回附属図書館医学分館運営委員会(メール会議)
～25日 「教育研究用推薦図書を購入について」他
- 9月25日 図書館本館防災訓練実施
- 10月 2日 平成24年度大学図書館職員短期研修
～5日 (於:京都大学附属図書館)
- 10月 4日 平成24年度佐賀大学接遇・マナー研修
(於:菱の実会館多目的室)
- 10月18日 平成24年度九州地区国立大学法人等テーマ別研修
～19日 (於:大分大学)
- 10月19日 第60回九州地区医学図書館協議会総会
(当番館:九州大学附属図書館医学図書館 於:博多グリーンホテル2号館)
- 10月25日 平成24年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議
～26日 (当番館:鹿児島大学附属図書館 於:鹿児島大学図書館5階ライブラリーホール)
- 10月31日 衛生管理者試験受験準備講習会
～11月2日 (於:小城市 (社)佐賀県労働基準協会講習場)
- 11月 1日 平成24年度第1回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会
(当番館:有明工業高等専門学校図書館 於:図書館1階セミナー室)
- 10月30日 佐賀大学事務系職員勉強会
(於:大学会館2階多目的ホール)
- 11月 8日 職場訪問受入
佐賀清和中学校 6名
- 11月19日 佐賀大学事務系職員勉強会
(於:大学会館2階多目的ホール)

11月20日 ～11月21日	第14回図書館総合展 (於:パシフィコ横浜)
11月26日	平成24年度九州地区国立大学附属図書館館長・事務(部・課)長会議 (当番館:九州大学附属図書館 於:九州大学附属図書館)
11月21日 ～11月30日	平成24年度第4回附属図書館選書専門委員会(メール会議) 「平成25年度電子ジャーナル、文献データベースの整備方針(案)について」
11月26日 ～11月27日	平成24年度佐賀大学中堅職員ステップアップ研修 (於:菱の実会館多目的室)
11月28日 ～12月 3日	平成24年度第2回附属図書館選書専門委員会(メール会議) 「平成24年度学科推薦図書の選定について」
11月30日 ～12月 1日	第21回九州地区医学図書館員セミナー (於:宮崎大学医学部総合教育研究棟プレゼンテーションホール)
11月12日	図書館月間講演会 (於:附属図書館4F会議室) 講演会テーマ 「徐福2200年ロマン—徐福の見た夢—」
11月13日	講演会テーマ 「徐福ラボにおける食品機能性に関する研究—佐賀県産品の可能性—」
11月26日 ～11月30日	平成24年度第4回附属図書館運営委員会(メール会議) 「平成25年度電子ジャーナル、文献データベースに整備に関する方針(案)」他
11月28日 ～12月 3日	平成24年度第3回附属図書館選書専門委員会(メール会議) 「本館学生用図書(教員推薦図書)の購入について」
11月26日	平成24年度九州地区国立大学附属図書館館長・事務(部・課)長会議 (於:九州大学附属図書館)
12月11日 ～12月17日	平成24年度第5回附属図書館運営委員会(メール会議) 「図書の除籍について」
12月21日 ～12月27日	平成24年度第1回附属図書館評価専門委員会(メール会議) 「平成23年度佐賀大学附属図書館自己点検・評価報告書について」他

平成 25 年

1月 9日	国立大学図書館協会賞専門委員会 (於:九州大学附属図書館事務部長室)
1月28日	第6回日本図書館協会九州地区図書館の集い/図書館総合展フォーラム2013 in 熊本 (於:くまもと森都心プラザ)
3月 8日	佐賀大学附属図書館自己点検・評価に関わる外部評価 (於:佐賀大学附属図書館)
3月22日	平成24年度第2回附属図書館評価専門委員会(メール会議) 「附属図書館の自己点検・評価に関わる学外者検証について」
3月26日	平成24年度第6回附属図書館運営委員会(メール会議) 「附属図書館評価専門委員会の報告について」
3月28日	平成24年度第2回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会 (当番館:保健医療経営大学 於:保健医療経営大学大会議室(本館2階))

貴重書紹介

『十帖源氏』 佐賀大学小城鍋島文庫所蔵 甲本(左)・乙本(右)



解説

野々口立圃作。10巻10冊。刊行は万治4年(1661)か。源氏物語梗概本の代表作。甲本は小城藩第2代藩主鍋島直能の旧蔵書であり、おびただしい書入れがある。第10冊末跋文は、甲本が著者立圃の自筆、乙本はそれを版刻したもの。

本文は両者一見したところ、同一の版本で刷られたかに見える。が、仔細に観察すると、別の異なる版本で印刷されたものであることがわかる(「被せ彫り」という技法による)。文学史上・出版史上の注目すべき発見であるが、これひとえに、重複本が棄てられなかったことによって判明したものである。重複を理由に蔵書を廃棄しなかった近世大家の見識の高さをうかがわせる恰好の事例といえよう。文化はこうして蓄積され継承されてゆく。

(文化教育学部教授 白石良夫)